

平成24年度 教育委員会 第18回定例会 議案

1 日 時 平成24年12月14日（金） 午後1時

2 場 所 西館7階教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 事

(3) 報告事項

(4) 閉 会

第18回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
1	平成 23・24 年度の家庭教育実態調査の結果	1
	平成 25 年 1 月の主要行事予定	11
2	<非> 船員採用第 2 次選考試験の結果	非

1 調査の目的

本調査は、家庭教育支援の効果的な方策について検討を進める上での参考とするため、平成23年度に小学校3年生の保護者、平成24年度に中学校2年生の保護者を対象に、家庭における教育の実態、親の意識やニーズ等を調査したものである。

2 調査の方法

	平成 23 年度	平成 24 年度
(1) 調査地域	静岡県全域（全 35 市町から 24 市町を抽出）	静岡県全域（全 35 市町から 25 市町を抽出）
(2) 調査対象	小学校 3 年生の保護者（日ごろ家庭教育を行うことが多い保護者）	中学校 2 年生の保護者（日ごろ家庭教育を行うことが多い保護者）
(3) 標本数	2,380 人（35 人×68 学級）	2,345 人（35 人×67 学級）
(4) 回収率	配布数 2,380 票 有効回収数 2,230 票 有効回収率 93.7%	配布数 2,345 票 有効回収数 1,985 票 有効回収率 84.6%
(5) 抽出方法	ア 目標回収数を 1,900 人前後と設定し、1 学級 28 人（35 人の 80%）回収として必要な学級数を算出 イ 県全体を 7 地区に分け、地区内の市町の位置、各市町の小（中）学生の人数分布を考慮して、市町に割振 ウ 調査は 1 学校 1 学級とし、バランスを考えて学校を決定	
(6) 調査方法	家庭の状況、家庭教育への意識や状況、悩みや不安、今後の希望等 選択肢回答（小学校全 20 問、中学校全 19 問） ※各学校を通じて、保護者へ配布。記入済の各アンケート票は封筒に封入、封緘された状態で各学校がとりまとめたものを、郵送または宅配便により回収。	
(7) 調査期間	平成 23 年 7 月 1 日～ 平成 23 年 7 月 11 日	平成 24 年 7 月 11 日～ 平成 24 年 7 月 27 日

3 集計結果（平成 23 年度に実施した小学校 3 年生の家庭教育実態調査と、平成 24 年度に実施した中学校 2 年生の家庭教育実態調査との比較）

※網掛けは小 3 と中 2 を比較したときに、5%以上数値が高い項目

※（参）と入れたものは、回答者数に大きな差がある（父と母）ものの比較

※下線は、表れが顕著なもの（割合の差が 10%に近いもの、項目として取り上げたいもの）

1 回答者（日ごろ子どもの家庭教育を行っている保護者）について	
小学校3年生	中学校2年生
《調査票の回収率》	
小学校 93.7%	中学校 84.6%
《問1》子どもとの続柄について	
母 93.7% 父 5.7%	母 91.6% 父 7.6%
《問2》現在の年齢について	
29歳以下 3.1% 30～34歳 18.1% 35～39歳 40.5% 40～44歳 29.6% 45歳以上 8.5%	29歳以下 0.3% 30～34歳 2.5% 35～39歳 19.6% 40～44歳 45.8% 45～49歳 24.8% 50歳以上 6.9% } 45歳以上 31.7%
《問3-1》家族（同居）の構成について	
核家族 60.4% 3世代家族 33.1% ひとり親家族 6.1%	核家族 52.1% 3世代家族 32.5% ひとり親家族 14.2%
《問3-2》子どもの数について	
1人 13.8% 2人 53.0% 3人 26.0% 4人以上 3.8%	1人 13.7% 2人 52.4% 3人 25.4% 4人以上 4.8%
《問5》住んでいる地域について	
住民のつながりが深い 13.7% 住民のつながりがある 69.4% 近所のつながりがあまりない 14.1% 近所とはお互いに関わらない 2.2%	住民のつながりが深い 15.2% 住民のつながりがある 69.9% 近所のつながりがあまりない 11.7% 近所とはお互いに関わらない 2.6%

【共通点】

- ・回答者（日ごろ子どもの家庭教育を行っている保護者）は圧倒的に母親が多い。
- ・小3、中2共に「子どもの数」の割合は、ほぼ同じ値である。
- ・小3、中2共に「住んでいる地域の状況について」の割合は、ほぼ同じ値である。

【異なる点】

- ・中2の親の年齢層の割合を見ると、小3より5歳程度高くなっている。
- ・家族構成をみると、小3に比べて中2は核家族の割合が低く、ひとり親家族の割合が高くなっている。



- ・調査票の回収率は、小学生の親より中学生の親の方が低く、家庭教育への関心が低いと考えられます。
- ・本調査では、中学生の親は小学生の親より年齢層が高く、また、ひとり親家族が多いことがわかります。

2 家庭教育の自己評価について			
小学校3年生		中学校2年生	
《問8》自分の子どもへの家庭教育（しつけ等）の状況をどう思うかについて			
必要なことはきちんと教育できている	4.1%	必要なことはきちんと教育できている	6.5%
足りない部分もあるが、教育できていることが多い	52.9%	足りない部分もあるが、教育できていることが多い	56.4%
教育できていることもあるが、足りないことが多い	40.9%	教育できていることもあるが、足りないことが多い	35.1%
ほとんどのことが、きちんと教育できていない	1.3%	ほとんどのことが、きちんと教育できていない	1.3%
〈クロス1〉 問3〈家族構成〉×問8〈家庭教育についての自己評価〉			
	校種	教育できている群	教育できていない群
核家族	小3	56.9%	42.2%
	中2	64.9%	34.7%
3世代家族	小3	58.5%	40.6%
	中2	64.8%	34.9%
ひとり親家族	小3	54.3%	44.9%
	中2	50.5%	48.6%
《問7》家庭教育（しつけ）で特に力を入れていることについて（複数回答）			
① あいさつや返事、言葉づかい	66.9%	① あいさつや返事、言葉づかい	59.1%
② 約束やルールを守る	58.5%	② 相手を思いやる気持ち	54.5%
③ 相手を思いやる気持ち	56.2%	③ 約束やルールを守る	54.0%
④ 善悪の判断	31.9%	④ 善悪の判断	40.6%
⑤ 基本的な生活習慣	25.2%	⑤ 基本的な生活習慣	18.9%

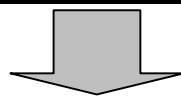
<p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問8から、約6割の親は家庭教育（しつけ等）ができていると感じている。 ・クロス1から、「ひとり親家族」は、「核家族」「3世代家族」に比べて自己評価が低い。特に中2はその傾向が大きい。 ・問7から、親は家庭教育（しつけ等）について、基本的な生活習慣より他者との関わりに関することを重視している。
<p>【異なる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問7から、中2は「あいさつや返事、言葉づかい」が小3と同様に1位であるが、割合は約8%低いことがわかる。 ・問7から、中2は「善悪の判断」が小3と同様に4位であるが、割合は約10%高いことがわかる。



<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育（しつけ等）において、親の「基本的な生活習慣」についての意識を高めるための支援が必要です。 ・中学生の「ひとり親」は、自分の子どもへの家庭教育の状況について自己評価が低い場合、自信をもって子育てができるための支援が必要です。

3 ほめること、しかることについて		
小学校3年生	中学校2年生	
《問9》子どもをほめることはあるかについて		
よくほめる 24.6% 時々ほめる 69.0% あまりほめない 5.2% ほとんどほめない 0.4%	ほめる群 93.6%	よくほめる 15.1% 時々ほめる 73.6% あまりほめない 9.7% ほとんどほめない 1.1%
		ほめる群 88.7%
《問9-1》ほめることについてどのような思いを持っているかについて		
ほめることが、家庭教育の中で大切なことだと思う	小3	35.0%
	中2	34.7%
ほめるようにしているが、うまくできな いとを感じる時もある	小3	32.4%
	中2	33.3%
ほめることでのびのびと育てたい	小3	29.1%
	中2	27.3%
《問10》子どもをしかることはあるかについて		
よくしかる 55.0% 時々しかる 42.3% あまりしからない 1.6% ほとんどしからない 0.4%	しかる群 97.3%	よくしかる 33.4% 時々しかる 58.5% あまりしからない 6.3% ほとんどしからない 1.1%
		しかる群 91.9%
《問10-1》しかることについてどのような思いを持っているかについて		
必要なときはしかることが、家庭教育 の中で大切なことだと思う	小3	66.8%
	中2	70.2%
必要なときはしかるが、うまくできな いとを感じる時もある	小3	27.0%
	中2	22.9%
子どもを甘やかしたくない	小3	3.8%
	中2	4.9%

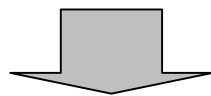
【共通点】
・小3、中2共に「ほめる」より「しかる」ことの方が多い。
・小3、中2共に「ほめる群」「しかる群」が約9割だが、その中で「うまくできな いと感じている」親が3割程度いる。
【異なる点】
・中2の方が小3より「よくほめる」「よくしかる」（「ほめる群」「しかる群」） の割合が低い。



【考察】
・小学生の親や中学生の親、どちらも「ほめる」ことや「しかる」ことに難し さを感じており、ヒントやアドバイスを得るための環境づくりが必要です。

4 子育ての悩みや不安について		
小学3年生	中学2年生	
《問 11》 子育ての中で、悩んだり、不安になったりすることがあるかについて		
よくある 22.9%	} ある群 79.0%	よくある 22.8%
時々ある 56.1%		時々ある 50.2%
あまりない 17.2%		あまりない 22.0%
ほとんどない 3.5%		ほとんどない 3.9%
《問 11-1》 悩んだり、不安になったりすることは、どんなことかについて (複数回答)		
自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない	小3	47.8%
	中2	49.9%
忙しく、余裕を持って子どもに接することができない	小3	45.8%
	中2	44.2%
しつけの方法、タイミングがわからない	小3	27.6%
	中2	22.1%
自分の子育てについて、周りの目や評価が気になる	小3	9.0%
	中2	6.9%
子育てについて、他の家族と意見が合わない	小3	8.8%
	中2	12.3%

【共通点】
<ul style="list-style-type: none"> ・小3は約8割、中2は約7割と高い割合で、親が悩みや不安を持っている。 ・小3、中2共に悩みや不安のうち、「自信がない」「余裕がない」「方法がわからない」といった自分自身に関わる理由が上位にきている。特に「自信がない」についてはどちらも約5割の親が選んでいる。
【異なる点】
<ul style="list-style-type: none"> ・中2は「悩みや不安」について、「しつけの方法、タイミングがわからない」と答えている割合が小3より低い。 ・中2は「悩みや不安」について「ある群」の割合が小3より低い。しかし、「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」「他の家族と意見が合わない」と答えている割合が小3より高い。



【考察】
<ul style="list-style-type: none"> ・悩んだり不安になったりする親のうち、「子育てに自信がない」「余裕を持って接することができない」「しつけの方法、タイミングがわからない」と回答する割合が、小学生、中学生どちらの親も高いことがわかります。親の悩みや不安の理由に対応した支援が必要です。 ・子育ての悩みが「あまりない」「ほとんどない」と答えている約2割の親は、本当に「悩みがない」のか、「子育てへの関心が薄い」のか、分析の必要があります。

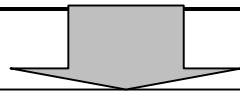
5 回答者（父、母）と悩み不安のあるなしについて																																			
小学3年生	中学2年生																																		
《クロス2》 問3〈家族の構成員〉×問11〈子育ての中で、悩みや不安はあるか〉について																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>校種</th> <th>ある群</th> <th>ない群</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">父</td> <td>小3</td> <td>68.3%</td> <td>30.1%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>60.7%</td> <td>38.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母</td> <td>小3</td> <td>79.5%</td> <td>20.1%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>74.1%</td> <td>25.0%</td> </tr> </tbody> </table>		校種	ある群	ない群	父	小3	68.3%	30.1%	中2	60.7%	38.0%	母	小3	79.5%	20.1%	中2	74.1%	25.0%																
	校種	ある群	ない群																																
父	小3	68.3%	30.1%																																
	中2	60.7%	38.0%																																
母	小3	79.5%	20.1%																																
	中2	74.1%	25.0%																																
《クロス3》 (複数回答) 問3〈家族の構成員〉×問11-1〈悩みや不安はどんなことか〉について																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>校種</th> <th>ていか 自分の 子育てが 正しい かどう か自信 がも てない</th> <th>忙し く、余 裕を持 つて 子ど もに接 するこ と が でき ない</th> <th>しつ けの 方法、 タイ ミン グが わか らな い</th> <th>い家 族と 意見 が合 わな い</th> <th>子育 てに ついて 他の 家族 と合 わな い</th> <th>自 分の 子育 てに ついて まわ りの 目や 評価 が気 にな る</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">父</td> <td>小3</td> <td>43.0%</td> <td>53.5%</td> <td>30.2%</td> <td>10.5%</td> <td>2.3%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>37.4%</td> <td>45.1%</td> <td>28.6%</td> <td>8.8%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母</td> <td>小3</td> <td>48.0%</td> <td>45.5%</td> <td>27.3%</td> <td>8.8%</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>50.9%</td> <td>44.4%</td> <td>21.8%</td> <td>12.7%</td> <td>7.4%</td> </tr> </tbody> </table>		校種	ていか 自分の 子育てが 正しい かどう か自信 がも てない	忙し く、余 裕を持 つて 子ど もに接 するこ と が でき ない	しつ けの 方法、 タイ ミン グが わか らな い	い家 族と 意見 が合 わな い	子育 てに ついて 他の 家族 と合 わな い	自 分の 子育 てに ついて まわ りの 目や 評価 が気 にな る	父	小3	43.0%	53.5%	30.2%	10.5%	2.3%	中2	37.4%	45.1%	28.6%	8.8%	0.0%	母	小3	48.0%	45.5%	27.3%	8.8%	9.3%	中2	50.9%	44.4%	21.8%	12.7%	7.4%
	校種	ていか 自分の 子育てが 正しい かどう か自信 がも てない	忙し く、余 裕を持 つて 子ど もに接 するこ と が でき ない	しつ けの 方法、 タイ ミン グが わか らな い	い家 族と 意見 が合 わな い	子育 てに ついて 他の 家族 と合 わな い	自 分の 子育 てに ついて まわ りの 目や 評価 が気 にな る																												
父	小3	43.0%	53.5%	30.2%	10.5%	2.3%																													
	中2	37.4%	45.1%	28.6%	8.8%	0.0%																													
母	小3	48.0%	45.5%	27.3%	8.8%	9.3%																													
	中2	50.9%	44.4%	21.8%	12.7%	7.4%																													

- 【共通点】**
- クロス2から、小3、中2共に父は母より悩みや不安について「ある群」の数値が10%程低い。(家庭教育を行っている父母の回答である)(参)
 - クロス3から、悩みや不安の内訳を見ると、小3、中2共に父は「余裕を持って接することができない」、母は「子育てに自信が持てない」の割合が高い。
- 【異なる点】**
- クロス2から、中2の方が小3より、悩みや不安について「ない群」の数値が父母共に高い。
 - クロス3は複数回答であるが、悩みや不安の内訳について、中2の父親は小3の父親より選んだ項目の数が少ない。(参)
 - クロス3から、中2の母親は「悩みや不安」について「ある群」の割合が小3より低い。しかし、「子育てに自信が持てない」「他の家族と意見が合わない」と答えている割合が小3より高い。

- 【考察】**
- 中学生の父親は、悩みや不安の理由について、複数回答した項目が小学生の父親より少ないことから、悩みや不安の理由についてピンポイントで捉えていることがわかります。(参)
 - 母親や父親それぞれの悩みや不安に対応した支援が必要です。

6 家族以外で話を聞いてもらえる人について														
小学3年生	中学2年生													
《問13》子育てについて、家族以外で話を聞いてもらえる人について（複数回答）														
いる 91.7%	いる 90.0%													
いない 8.1%	いない 9.6%													
《クロス4》 問3〈家族の構成員〉× 問13〈家族以外で話を聞いてもらえる人はいるか〉について														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>校種</th> <th>いる</th> <th>いない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">父</td> <td>小3 69.8%</td> <td>29.4%</td> </tr> <tr> <td>中2 58.7%</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母</td> <td>小3 93.0%</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>中2 92.7%</td> <td>7.0%</td> </tr> </tbody> </table>		校種	いる	いない	父	小3 69.8%	29.4%	中2 58.7%	40.0%	母	小3 93.0%	6.8%	中2 92.7%	7.0%
校種	いる	いない												
父	小3 69.8%	29.4%												
	中2 58.7%	40.0%												
母	小3 93.0%	6.8%												
	中2 92.7%	7.0%												

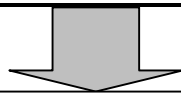
<p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問13から、「話を聞いてもらえる人がいない」親は、小3、中2共に約1割いる。 ・クロス4から、「話を聞いてもらえる人がいる」母親は、小3、中2共に9割以上と高い値である。 ・クロス4から、小3中2共に「話を聞いてもらえる人がいる」割合が母親の方が父親より高い。(参)
<p>【異なる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロス4から、中2の父親は、話を聞いてもらえる人がいない割合が4割と高い。(参)



<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話を聞いてもらえる人がいない」親の割合は、小学生の親も中学生の親も同じで、いつまでもその状況が変わっていないと考えられます。「いない」親に対してまわりの人とつながるための支援が必要です。 ・話を聞いてもらえる人がいない父親（特に中学生）が、子育てについてまわりの人とつながるための支援が必要です。(参)

7 今後、参加したいこと、子育ての助言や学習で希望することについて	
小学3年生	中学2年生
《問16》子育てについて相談をするならどのような人がいいかについて（複数回答）	
① 同じ年の子どもを持つ親 73.1%	① 同じ年の子どもを持つ親 71.8%
② 異学年の子どもを持つ親 63.3%	② 異学年の子どもを持つ親 59.9%
③ 小学校の先生 50.1%	③ 専門的な知識を持っている人 39.7%
④ 専門的知識を持っている人 42.9%	④ 中学校の先生 37.1%
⑤ 近所の子育て経験豊富な方 30.6%	⑤ 近所の子育て経験豊富な方 33.8%
《問18》今後、参加したり、行ったりしたいものについて（複数回答）	
① 話を聞いてもらう 54.9%	① 話を聞いてもらう 57.2%
② 親同士の交流 46.5%	② 不安や悩みの相談 47.0%
③ 不安や悩みの相談 45.9%	③ 親同士の交流 39.7%
④ 冊子、リーフレットから情報収集 28.6%	④ 冊子、リーフレットから情報収集 26.7%
⑤ インターネットから情報収集 22.6%	⑤ インターネットから情報収集 24.8%
《問19》助言や学習の希望する内容について（複数回答）	
① ほめ方しかり方 66.7%	① 親の基本的な心構え 50.7%
② 親の基本的な心構え 56.1%	② ほめ方しかり方 48.9%
③ 善悪の判断 50.8%	③ 善悪の判断 38.6%
④ 子どもの発達に関する知識 35.9%	④ 子どもとの関わり方 38.5%
⑤ 生活習慣のしつけ方 21.7%	⑤ 子どもの発達に関する知識 25%
	※④の「子どもとの関わり方」については、中学のみの項目

<p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問16から、小3、中2共に相談相手として、「同じ年の子どもを持つ親」「異学年の子どもを持つ親」を望んでいる割合が高い。 ・問18から、小3、中2共に今後参加したいものとして、「話を聞いてもらう」「悩みや不安の相談」「親同士の交流」を希望している割合が高い。 ・問19から、小3、中2共に助言や学習の内容として、「ほめ方しかり方」「親の基本的な心構え」「善悪の判断」を希望している割合が高い。
<p>【異なる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問16から、中2は相談相手として「先生」を選んでいる割合が小3より低い。 ・問18から、中2は今後参加したいものとして「親同士の交流」を選んでいる割合が小3より低い。 ・問19から、中2は助言や学習の希望する内容について、回答した割合がほとんどの項目で小3より低い。



<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の親は、助言や学習の希望する内容について、複数回答した項目が小学生の親より少ないことから、希望する内容についてピンポイントで捉えていることがわかります。 ・同じ年の子どもを持つ親や異学年の子どもを持つ親などが、つながるための支援が必要です。 ・親同士が交流する中で、話を聞いてもらったり、悩みや不安を相談したりする参加型の支援が必要です。
--

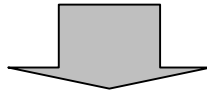
8 住んでいる地域と親の悩みや不安について

《クロス5》 問5 〈住んでいる地域〉 ×
問11 〈子育ての中で、悩みや不安はあるか〉 について

項 目	校種	よくある	時々ある	あまりない	ほとんどない
住民のつながりが深く、近所のつき合いがさかんな地域	小3	23.0%	53.1%	21.0%	2.6%
	中2	23.8%	49.0%	21.5%	5.0%
住民のつながりがあり、地域の行事の時はみんなで取り組む地域	小3	21.9%	56.8%	17.4%	3.4%
	中2	21.8%	50.6%	22.8%	3.7%
近所のつながりがあまりなく、地域の行事への取組も低調な地域	小3	26.1%	55.1%	13.7%	4.8%
	中2	25.8%	48.9%	19.3%	4.3%
近所とはお互いにかかわらない雰囲気がある地域	小3	35.4%	52.1%	8.3%	4.2%
	中2	31.4%	51.0%	13.7%	3.9%

【共通点】

- ・小3、中2共に地域とのつながりが希薄な親ほど、子育ての悩みや不安が「よくある」と答える割合が高い。



【考察】

地域とのつながりは家庭教育により影響を与えていることから、親が地域とつながるための支援が必要です。

平成24年度の調査からわかったこと

中学生の親の実態

●家庭教育・子育てへの意識

- ・家庭教育への自己評価が高い親が多いが、約7割の親が子育てについての悩みや不安を持っている。
- ・悩んだり不安になったりする理由は、母親は「子育てに自信が持てない」、父親は「忙しく、余裕を持って接することができない」である。(参)
- ・「ほめる」「しかる」ができていると答えても、「うまくできない」と感じている親が約3割いる。
- ・しつけについては基本的な生活習慣についての意識が低い。「あいさつ」「思いやる気持ち」「約束やルール」「**善悪の判断**」→約4割(小学校約3割)「基本的な生活習慣」の順。
- ・ひとり親家族の割合が高い。ひとり親家族の親は、家庭教育への自己評価で「教育できている」が低い。(全体が62.9%に対してひとり親は50.5%)
- ・父親の4割は、話を聞いてもらえる人がいないと答えている。(参)

●親が求めているもの

- ・参加したいものは、「話を聞いてもらう」「不安や悩みの相談」「親同士の交流」
- ・相談したい相手は、「同じ年の子どもを持つ親」「異学年の子どもを持つ親」「**専門的な知識を持っている人**」
- ・助言や学習の希望は、「親の基本的な心構え」「ほめ方しかり方」「善悪の判断」

●地域とのかかわり

- ・地域とのかかわりが希薄な親ほど、悩みや不安が「よくある」と答えている。

希薄←つながり→深い
31.4%→23.8%

必要な支援

●親の身近なところで、身近な人による支援

●親が交流しながら相互に相談する参加型の支援

《支援の内容》

- 家庭教育(しつけ等)において、親が「基本的な生活習慣」について意識を高めるための支援
- 「ほめる」ことや「しかる」ことに難しさを感じている親が、ヒントやアドバイスを得るための環境づくり
- 中学生のひとり親は自己評価が低いとため、自信を持って子育てができるための支援
- 親の悩みや不安の理由に対応した支援
- 母親や父親それぞれの悩みや不安に対応した支援
- 親が自分の子育てに自信が持てるような支援(特にひとり親を巻き込んで)
- 父親が子育てについて、まわりの人とつながるための支援
- 「話を聞いてもらえる人がいない」という親がまわりの人とつながるための支援
- 同じ年の子どもを持つ親や異学年の子どもを持つ親などがつながるための支援
- 親と「専門的な知識を持っている人」をつなぐための支援
- 親が地域とつながるための支援

報告事項

平成24年12月14日

(件名)

平成25年1月の主要行事予定

日時	行事名	会場等
1/9 (水) 午後	◎教育委員会定例会 (1月第1回)	県庁本館4階 議会401会議室
1/28 (月) 終日	◎教育委員会定例会 (1月第2回)	県庁西館7階教育委員会議室
1/30 (水) 終日	◎第5回移動教育委員会	松崎町立松崎小学校
1/31 (木) 午後	◎公安委員との意見交換会	公安委員会会議室

◎全委員

第18回定例会 追加報告事項

番号	項 目	Page
3	平成 25 年度静岡県公立併設型高等学校入学者選抜の定員	1
4	<非> 重大な生徒指導事案報告	非

平成25年度静岡県公立併設型高等学校入学者選抜の定員

(学校教育課)

1 入学者選抜の定員

平成25年度静岡県公立高等学校入学者選抜実施要領に基づき、公立併設型中学校の生徒に対する当該併設型高等学校への入学意思の確認が、平成24年12月12日までに終了した。

これにより、平成25年度静岡県公立併設型高等学校3校の入学者選抜の定員は、次のとおり確定した。

学校名	学科名	募集定員 (学級数)	入学者選抜の定員 (併設型中学校からの 入学予定者数を除く定員)
県立清水南高等学校	普通	120 (3学級)	56
	芸術	40 (1学級)	29
県立浜松西高等学校	普通	240 (6学級)	84
沼津市立沼津高等学校	普通	200 (5学級)	132

2 昨年度の入学者選抜の定員 (参考)

学校名	学科名	平成24年度
清水南高等学校	普通	61
	芸術	31
浜松西高等学校	普通	83
沼津市立沼津高等学校	普通	126